

令和7年6月11日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島大学附属小学校	国立大学法人広島大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島大学附属小学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about2

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島大学附属小学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about2	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_midori_shou/about/about2

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

＜特記事項＞

PTA の代表者に対しての説明に留まっており、今後は幅広く情報提供をする予定。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

英語を使用する機会が多く設定されており音声での英語コミュニケーションに慣れ、自然な発音を身に付けたり、英語に親しむことで、英語でのコミュニケーションに積極的な児童が増え、異文化理解や平和学習などに関わるコミュニケーション活動を発展的に展開するカリキュラムとして有効である。

一方で、コミュニケーション活動に対する個人差が見られる課題があり、指導の工夫や改善が必要である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

英語圏の国をはじめ、様々な国の文化について学ぶことで、外国を身近に感じ、知識を身につけることができた。一方でスモールステップの指導を行うことで中学年から高学年への学習の接続が進み、外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を概ね育成できている。

コミュニケーションに向かう態度には依然として個人差が見られ、子供たちの学ぶ意欲を高める点が課題である。

4. 課題の改善のための取組の方向性

子供の学力、意欲についてかどうかを適切に評価する方法及びフィードバックの方法を確立するなど、常に評価と改善をセットで指導するなど工夫が必要である。

また、公立学校のモデルとなれるよう、指導方法や指導内容の事例やカリキュラムを公開するなど特例で行う実践の成果の普及に努める必要がある。